

ICTを活用した双方向授業活用の日本語教員養成プログラム

—2021年度の報告と授業内フィードバック(2)—

安原 順子

1. はじめに

コロナ禍が続き、国内外では対面授業とともにオンライン授業が実施されている。外国人への日本語教育分野においても、マルチメディアを使用した教育の実践に著しい進展が見られた。日本語教育関連の学会や研究会、研修会もオンライン開催が主流となっており、日本語教育学会でもICT使用の教育の試みが多数報告されている。

国内では、(社)私立大学情報教育協会の主催で「教育改革・IT戦略会議」がオンラインで開催され、国外では、近年隔年で開催されていたICJLE 2020日本語教育国際研究大会が、2022年開催に延期されたままである。国内と同様に、学会や研究会、研修会もオンライン開催が多数を占め、教員や学生間の海外との直接の交流は格段に減少した。

このような状況下で、国内外の日本語教育において、マルチメディアを使用した日本語教育への関心はさらに高まっている。

本研究は、ICTを使用し学習者オートノミーを育てることを目標に、eポートフォリオを使用した日本語教員養成の学習プログラムを構築することにある。また、ICTと対面授業を組み合わせたハイブリッド型（配布レックス型）のプログラムの構築を目指している。1960年代のヨーロッパが発祥地であるとされている「学習者オートノミー」の研究は、近年、アクティブ・ラーニングにつながる言語教育領域としても関心が向けられ、アクティブ・ラーニングは、オンライン授業の一方法として注目されるようになってきている。

本稿では、2021年度の報告と新たな授業内フィードバックについて実践報告を行い、日本語教員養成のプログラムを精査する。

2. 研究目的

異文化間コミュニケーションにおいてオンライン上の双方向授業とreflective journal（学習ダイアリー）^{※1}を使用することにおいては、その効果が質的に分析され、有効性は実証されている。しかしながら、それだけでは、十分な知識と指導力を持った日本語教員の養成にはつながらなかった。そこで、これまでの双方向授業の研究成果を踏まえて、新たに学習者オートノミーを育てるeポートフォリオを使用した日本語教員養成の学習プログラムを構築し、遠隔授業やアクティブ・ラーニングの一形態としても必要とされる授業モデルを研究対象とすることにした。

(2)

3. 先行研究

これまでの研究では、海外の大学とICT使用の双方向学習による学習者オートノミーを対象とした研究報告はほとんどなく、したがって授業モデルの構築にも至っていない。本研究は、授業における実践を研究対象とし、海外との交流が増加する中、遠隔授業の一つとしての日本語教員養成の授業モデルを構築するところに独自性と創造性がある。

さらに、本研究は以下のような学術的独自性と創造性を持つ。

- ①ICT利用の双方向授業を活用し、学習モデルを構築している点。
- ②reflective journalの使用とそのeポートフォリオ化により、学生自身の「学びの気づき」と「学習者オートノミーの構築」を重視している点。

本研究の成果から、海外の日本語学習機関との学習プログラムを使用した学習者オートノミーを育む、新しい日本語教員養成プログラムの構築とその質の向上が期待できる。

4. 学生の気づきと学習者オートノミー

本研究は、日本と海外の大学との「ICTによる双方向授業」を中心に、「学習者オートノミー」の育成に焦点を当てた研究である。近年、日本語教育における日本語の熟達度を知る基準としてヨーロッパ言語共通参照枠CEFRに準じたJF日本語教育スタンダードが取り上げられている。学習者オートノミーは、1960年代のヨーロッパで生まれた概念であり、CEFRには学習者オートノミーを育む取り組みが不可欠とされる。そのため、JF日本語教育スタンダードの実施は、学習者オートノミーの概念抜きでは機能しない。JF日本語教育スタンダードのポートフォリオも、ヨーロッパ言語ポートフォリオを踏襲している。学習者オートノミーを育てるためのアプローチについては、そのひとつに「IT技術を利用したもの」が挙げられている。また、ICTによる外国語教育は、遠隔授業を行うために必要な手段の一つでもあり、国内外における外国人への日本語教育においては、マルチメディアを使用したICTによる日本語教育への関心が高まりを見せている。

このように関連性があるにもかかわらず、本研究課題のようにこの二つを兼ね合わせた、つまり日本と海外の大学との「ICTによる双方向授業」を中心に日本語教員養成のための「学習者オートノミー」の育成に焦点を当てた研究はほとんどない。それぞれの特色を活かしていないのが現状である。

本研究では、ICTの利用による学習者オートノミーの育成に関して、新たに以下の3つの効果が期待できる。

- ①学生が主体的に学修し、成果を実感できる。（自己評価）
- ②担当教員も授業の効果や問題点を把握しやすい。（教員による評価）
- ③学生同士の相互評価が期待できる。（相互評価）

本研究は、科学研究費採択課題である「日本語教員養成と日本語学習者のための双方向学習プログラムの研究」（課題番号 16K02832 平成28年度～平成30年度）をさらに発展させた研究内容となる。

特に、本研究課題では、これまでの成果に「学習者の自律性」を助ける授業中のフィードバックを付加したプログラムにも焦点を当てる。いわゆる自分で学んでいける学習者を育てる「学習者オートノミー」に焦点をあてて、さらに双方向授業についての研究を継続・拡張する準備を行った研究である。

5. 研究の意義と研究の位置づけ

本研究は、授業における実践を研究対象とし、コロナ禍でも海外との交流が増加する中、遠隔授業の一つとしての授業モデルを構築するところに独自性と創造性がある。

また、研究の成果から、海外の日本語学習機関との新しい学習プログラムの構築と質の向上が見込まれる。さらに、その結果が双方向授業を使用した学習プログラムの構築へとつながる。

研究の成果は、遠隔授業の一形態として、さまざまな学習者主体の学修プログラムにも応用が可能であり、普遍性を持つ研究課題であると考えられる。主役は学習者であり、双方向学習プログラムは学びを促進するツールとして活用でき、学びのネットワークの起点となる。本研究を基礎研究として位置付ければ、さらに双方向学習プログラムの活用方法が拡がり、波及的な効果も期待できる。

6. 研究計画・研究方法

6.1 研究計画

神戸女子大学と提携校であるニュージーランドのオークランド工科大学（以下AUTと略す）間で、AUTonline（AUTが管理するe-learningシステム）を使用した双方向授業として、研究対象となる授業の試行と連携教育を3年間行う。3年目を研究完成年度とする。大学3年生を対象に、1年間に2種類の授業を行い、授業を通した日本語指導者の育成方法とreflective journalを質的に分析した結果から学習の有効性を検証する。reflective journalをeポートフォリオの一部として活用し、質的に分析する。また、eポートフォリオの内容をチェックし、必要な助言を与えることで、効果的に日本語教員を育成する方法論を明らかにする。

6.2 研究方法

- ・学生がeポートフォリオに提出した以下の対象授業のreflective journal、指導案、レポートなどを分析し、自己評価、相互評価、教師による評価を行う。

(4)

- ・双方の学生は、以下の授業に参加し、毎週各自が学習を自己評価して、その結果を reflective journal として双方向授業ではAUTonlineに提出、常時「学習の振り返り」を行う。
- ・神戸女子大学学生は、外国人日本語学習者の使用する日本語から、文法・音声の誤用についてレジュメにまとめて授業で発表し、eポートフォリオとして神戸女子大学online manaba（神戸女子大学が管理するe-learningシステム）に提出する。^{注2}

(1)対象となる授業1:

対 象 者：神戸女子大学…3年生の日本語日本文学演習Ⅱ（日本語教育ゼミ）10名

AUT…3年生主体のJapanese Oral Interaction（AUT日本語科の日本語クラス）14名

授 業 内 容：双方向授業…AUTonlineを使用し、実施する。

双方向授業のテーマ：「ソトから見た日本人、ウチから見た日本」「海外長期滞在と移住」など。

AUTと神戸女子大学生でグループを作り、グループごとに一つのプログを用意する。

①プログ使用の授業：文字を使用する双方向授業

AUT 学生は2週間ごとに各テーマについての課題作文をブログに書き込む。

神戸女子大学生は、それに対するコメントをブログに書き込む。

②Zoom使用の授業：音声を使用する双方向授業

担当教員がZoomでのインタビューを設定し、ブログのテーマに沿って日本人学生が用意し、ブログ上に書き込んだ質問に答える。毎週、1グループ約15分間の交流を行う。

(2)対象となる授業2：日本語模擬実習、日本語チューター

参加予定学生：神戸女子大学生（上記に同じ）

授 業 内 容：日本語指導の実践…eポートフォリオを通して実習の指導を行い、教育実習案、教材、reflective journalを提出する。本学の特色である古典芸能についての解説も含む。

①日本語模擬実習（海外教育実習を含む）

学内、海外でeポートフォリオを活用した日本語教育実習を実施する。

②日本語チューター

授業の一環として外国人留学生・研修生対象の1回完結型の日本語指導を毎週行う。指導は、外国人が日本語で「～できる」ことを重視する。また、Plan（企画）、Do（実施）、Check（点検）、Action（改善）というPDCAサイクルを重視し、常に外国人のニーズの変化に対応できるようにする。

その結果を基にプログラム有効性について検証し、さらに改良を加え、構築したeポートフォリオを活用した双方向学習プログラムが他の機関での授業モデルとなるようにする。

(1)日本語教員養成と日本語学習者のため双方向学習プログラムモデルの構築と検証

神戸女子大学学生:双方向授業などを通し外国人の書いた日本語を読んだり、話した日本語を聞いたりすることや、実際に外国人への日本語指導を通して得た知識や指導力を、eポートフォリオの提出物から振り返る。

AUT学生:日本人学生と接して、日本語学習に対する学習姿勢にはどのように変化があったか。

(2)双方のreflective journalを質的に分析した結果から考察した学習効果の検証

使用する質的分析は、SCAT (Steps for Coding and Theorization) と称され、言語データを4ステップでSCATフォームに書き込み、さらにストーリー・ラインと理論を記述する。^{注3}

7. 学生への授業内フィードバック

学生には、授業の一環として、双方向授業が終了してから担当するAUT学生の日本語を分析し授業で発表することとしている。これには、以下の大きなメリットがある。

- (1)自分で学んでいける学生が育つ
- (2)レジュメによる発表をすることにより、レジュメの書き方、レジュメを使用した発表の方法が分かる
- (3)さまざまなAUT学生の日本語能力に関する情報を共有し、一般化できる分析力が育つ
- (4)学生へ直接フィードバックができる

ここで、授業でのレジュメ使用の発表を通したフィードバックの例をあげる。

レジュメ発表では、A4 2枚に次の項目についてAUT担当学生の日本語の誤用について発表する。作成したレジュメは、当日発表前に神戸女子大学manabaの所定の掲示版にアップする。

①学習者の紹介

担当するAUT学生のプロフィールを紹介する。

②書き言葉の分析

AUTオンライン上の交流ブログから、誤用を、抽出し訂正する。

誤用の文章を訂正するに当たり、このAUT学生には日本語についてどのような特徴が見られるだろうか。誤用の訂正は、日本語母語話者にとっては慣れればそれほど困難ではない。しかし、そこから学習者の誤用の特徴を見つけ日本語教育に応用する力は、改めて伸ばすしかなく、教授者としての学習者オートノミーの育成に繋がる。

(6)

番号	発話者	テキスト	(1)テキスト中の注目すべき語句	
1	JS1	コロナ禍のことは国外のことも知っておくべきだと思うのでニュージーランドの状況がしれてよかったです。とてもいい経験になりました。他のゼミだったら他の外国人の学生と触れ合い実際の日本語の使い方など詳しく知ることではできなかったと思います。	コロナ禍のことは国外のことも知っておくべきだ とてもいい経験になりました 外国人の学生と触れ合い	
2	JS2	私は海外移住をしたことがないですがTさんとRさんはあるそうです。日本よりも異文化に触れ合おうというモチベーションが高いのかなと思いました。今回はどこに旅行に行きたいかについて話せてとても楽しかったです。どちらもニュージーランド出身ではなくRさんはフィリピン出身で、Tさんは台湾出身だそうです。全員将来の夢が明確に決まってないということで親近感が湧きました。また日本に来て嫌な面があったかという質問に対し日本人に面に向かって言いにくいというのはあったかもしれませんが、あまり思いつかない様子でした。またどちらの家族の方も日本がとても好きと言って嬉しかったです。	私は海外移住をしたことがない 日本よりも異文化に触れ合おうというモチベーションが高いのかな 全員将来の夢が明確に決まってない ということで親近感が湧いた 日本に来て嫌な面があったか どちらの家族の方も日本がとても好きと言って嬉しかった	
3	JS3	Zoomでの交流は終わってしまったが、お互いの国について詳しく話すことができた。国によって常識が全く異なることもあるのだと勉強になった。交流は終わったが、気づいたことなどをしっかりまとめて授業で発表していきたい。	お互いの国について詳しく話すことができた 国によって常識が全く異なることもあるのだ気づいたことなどをしっかりまとめて授業で発表していきたい	
4	JS4	AUTの学生さんは今までにいろいろな国に行って生活をしたことがあることがわかりました。とても楽しく毎回の授業に参加させていただきました。私の担当の2人以外のAUTの学生さんと神戸女子大学の学生さんとの会話も聞いていましたが、やはり回数を重ねるにつれて自然な会話を続けられるようになっていったように感じました。とても楽しい4時間でした。ありがとうございました。	AUTの学生さんは今までにいろいろな国に行って生活をしたことがあるとても楽しく毎回の授業に参加 回数を重ねるにつれて自然な会話を続けられるようになっていったように感じました とても楽しい4時間	
5	JS5	私のグループのAUTの学生さんたちはこれまでに様々な国で生活してきていたことを知りました。二人とも短期ではあるものの、日本にも滞在したことがあると言っていたので日本に来ての印象を聞いてみると、台湾に住んでいた学生さんは「文化が近かった」、「日本人は控えめだと思った」と話していて興味深かったです。初回の双方向授業のときはうまく交流できる自信がなく、正直かなり不安を感じていたのですが、最後の交流を終えてみると、毎回とても楽しい時間が過ごせたなと思っています。また、担当の学生さんが今回の授業の振り返りに「前より自信を持って日本語を話せた」と書いてくれていて、それが本当に嬉しかったです。	AUTの学生さんたちはこれまでに様々な国で生活してきていたことを知った 日本に来ての印象を聞いてみる 「文化が近かった」、「日本人は控えめだと思った」 初回の双方向授業のときはうまく交流できる自信がなく、正直かなり不安を感じていた 最後の交流を終えてみると、毎回とても楽しい時間が過ごせたなと思っている	

〈2〉テキスト中の語句の言い換え	〈3〉左を説明するようなテキスト外の内容	〈4〉テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	〈5〉疑問・課題
<p>コロナ禍の国外のことも知っておくべき いい経験 実際の日本語の使い方など詳しく知る</p>	<p>異文化接触により、知識を得る 新たな発見をする 気づきを得る 満足する驚き</p>	<p>異文化と出会いから、新たに気づきを得る</p>	<p>異文化との出会いから得られるものはさらになにか?</p>
<p>自分の経験 日本よりも異文化に触れ合おうというモチベーションが高い 親近感 日本への好意 うれしい</p>	<p>異文化に触れようとするモチベーションが高い 卒業後についても親近感 日本についての好意に好感</p>	<p>異文化接触によりモチベーションの有無に気づく 親近感 好感</p>	<p>異文化接触によるモチベーションは持続するかどうか。</p>
<p>詳しく話すことができた国によって常識が全く異なる 授業で発表していきたい 気づき 発見</p>	<p>日本との相違点を知り、異文化についての発見をする 気づきを得る</p>	<p>異文化交流を通じた発見 意欲の高まり</p>	<p>異文化についての発見は、授業参加への意欲にも繋がるのか?</p>
<p>日本との違い 授業への参加が楽しい 自然な会話向上が楽しい</p>	<p>異文化を知り、日本についての新しい発見をする 回数を重ねると会話が弾む</p>	<p>異文化を知れば、自国についても再発見がある</p>	<p>他には、新たな発見があるか?</p>
<p>様々な国で生活してきたことを知った 印象を聞いてみる 「文化が近かった」、 「日本人は控えめだと思った」 初回の双方向授業のときはうまく交流できる自信がなく、正直かなり不安 毎回とても楽しい時間が過ごせた初回は不安 楽しい時間を過ごす 満足感</p>	<p>日本と考え方の違いを理解し、知識を得て互いを理解する 自信の回復 満足感</p>	<p>異文化を理解することが、自己啓発にも繋がる</p>	<p>異文化を理解できれば、具体的にどのような自己啓発が得られるか?</p>

(8)

番号	発話者	テキスト	(1)テキスト中の注目すべき語句	
6	JS6	KくんがフィジーからNZに引っ越した時、インド人だからいじめられたと言っていた。日本は人種差別に疎いが、海外ではそのようなことは深く重い問題であるということが改めて分かった。 今回で最後で寂しい。たった4回は少ないしもっと定期的に話したい。2人とも日本に来たらまた教えてほしい。Kくんは日本の会社に就職できたらいいな。Iさんは日本で留学できたらいいな。	インド人だからいじめられた 日本は人種差別に疎いが、海外ではそのようなことは深く重い問題であるということが改めて分かった 今回で最後で寂しい Kくんは日本の会社に就職できたらいいな。 Iさんは日本で留学できたらいいな	
7	JS7	キャサリンさんもハヌルさんも、ニュージーランドに住んでいるが、親が韓国の方だったり、日本の方だったりする。家と外で使う言語が異なることが分かった。 あまり会話ができてなくて残念だった。まだハヌルさんのコメントやビデオレターが届いてないので、届いたら、しっかりと返信したいと思う。	家と外で使う言語が異なることが分かった あまり会話ができてなくて残念だった コメントやビデオレターが届いてないので、届いたら、しっかりと返信したいと思う	
8	JS8	日本に住んでいて当たり前で過ごしていると気づかない日本の魅力やイメージについて知ることができてよかった。4回の授業はあっという間だった。もっと色々な話ができればよかったという少しやりきれなかった気持ちも残るが、パートナーが日本語学習に対して一生懸命な姿に刺激を受けることができたことや、今まで当たり前の日常生活の中では気づかなかった日本の良さについて知ることができたことは良かったと思う。	気づかない日本の魅力やイメージについて知ることができてよかった パートナーが日本語学習に対して一生懸命な姿に刺激を受けることができたことや、今まで当たり前の日常生活の中では気づかなかった日本の良さについて知ることができたことは良かった	
9	JS9	異文化理解の発見は特になかった。非常に良い経験ができたことを嬉しく思います。 「テラスハウス」では、男性が女性に料理を振舞うことが多い。それに対して、日本語学習者は違和感を抱いていた。つまり、その日本語学習者も女性が男性に料理を振舞う方が一般的という考え方なので、「異文化」ではないが、お互いの文化を知ることができた	男女の役割 料理をするのはだれか お互いの文化を知ることができた	
10	JS10	同じ話題について話していても、一人一人の観点から意見を伝えて、意見が違っても、お互いがわかりあって、理解してくれればよかった。そしてそれもまた、新しい経験になれると思う。 最後に一人だけ一緒に会話できないことがすごく残念だと思う。お別れ言葉をちゃんと言えたか少し心配だが、みんながいい思い出になれるといいな。	意見が違っても、お互いがわかりあって、理解してくれればよかった。そしてそれもまた、新しい経験になれる お別れ言葉をちゃんと言えたか少し心配だが、みんながいい思い出になれるといい	

表1.2021年度 神戸女子大学学生の reflective journal 分析例

	〈2〉テキスト中の語句の言い換え	〈3〉左を説明するようなテキスト外概念	〈4〉テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	〈5〉疑問・課題
	国籍によるいじめ 大きな問題 問題の大きさを改めて感じる 卒業後の進路にエールをおくる	異文化にも共通する問題と共感、新たな知り合いを応援する	異文化に接し、自国との共通点を確認し、共感を覚える	異文化接触の結果は、共感だけか?
	ニュージーランドでは、家庭内外で使用言語が異なることがある 会話が進まないことがあった AUTonlineでの双方向授業の交流を楽しむ	異文化での言語賞について新たな知見を持つ交流についての意欲	異文化について新しい発見をして、満足する	その他はどのような発見があるのか?
	日本の魅力や外から見たイメージを新たに発見 日本語学習への意欲に刺激を受ける 日本の良さについて知る	日本の魅力を発見、良さを知る 日本語学習者から刺激を受ける	異文化についての新しい知識を得る	異文化についての違和感はないのか?
	男女の役割への疑問 文化より考え方の違い 理解 満足感	疑問が残る 共通点を見いだす 理解 満足感	異文化接触により新たな知見を得る	発見には、共通点もあるのだろうか?
	意見の異なり わかり合って理解が深まる 新鮮 心残り 期待感	意見の相違を克服 満足する 期待感	意見の相違は、次の関係進展を促す	どのように問題を克服し、関係を進めるのか?

(10)

例えば、AUT学生とのオンライン上の交流から次のような誤用の例が見られる。

①「だ」の脱落

- ・ラグビーとテニスと思います。
- ・プロの試合とか学校の試合がたくさんあるから、この二つは一番人気あるのスポーツと思います。

②い形容詞の誤用

- ・すこし悲しでした。 → すこし悲しいです。
- ・回線が悪いでしたが、たのしかったです。 → 回線が悪かったですが、たのしかったです。

前出の誤用文（「だ」の脱落）の理由は文法規則の「過剰般化」によるものである。

誤用

訂正

ラグビーとテニスと思います。 → ラグビーとテニスだと思います。プロの試合とか学校の試合がたくさんあるから、この二つは一番人気あるのスポーツと思います。 → プロの試合とか学校の試合がたくさんあるから、この二つは一番人気あるのスポーツだと思います。

「～と思います」に接続する形は、品詞により次のように変化する。

		「だ」の有無
動詞	休むと 思 います	×
い形容詞	寒いと 思 います	×
な形容詞	便利 だ と 思 います	○
名詞	学生 だ と 思 います	○

表2 「～と思います」に接続する形の「だ」の有無

ところが、このAUT学生はだ「～と思います」の「と」の前がそれぞれ名詞であるにもかかわらず、「だ」を付与していない。

発表を通して、すべての誤用は、共通した理由によって起こることが理解できれば、学生の成長が見られる。

③話し言葉の分析

Zoomを使用した交流から、音声の誤用を、抽出し訂正する。音声での誤用については、予めどのような点に着目するかのヒントを与えて分析させた。これらは、学生の母語・家族間での使用言語によって異なるが、概ね次のような項目立てができる。

長短音の発音

いじよです → いじょうです

清濁音の発音

ごくぎ → こくぎ

カタカナ語の発音

Online → オンライン

アクセント

へんじ → へんじ (返事)

④まとめ

結果の分析と発表者の意見

発表を通して、すべての誤用は、同じ理由によって起こることが理解できれば、学生の教授能力にも成長が見られると考えられる。

8. まとめ

本稿における「学習者オートノミーの構築」のための授業内フィードバックを重視する試みは、オンライン上の双方向授業におけるeポートフォリオや発表を活用し、学生が自律的に学習する学習者オートノミーを育てる授業プログラムの構築に寄与できると考える。

本研究の成果により、学習者の学習への意欲の向上とともに、海外の日本語学習機関との新しい学習プログラムの構築が見込まれる。その結果は、双方向授業を使用した学習プログラムの構築へと拡がり、さらに、その成果が「学習者オートノミーの育成」に繋がる。そのためには、教授者としての能力を伸ばすフィードバックが必要となる。

謝辞：本研究はJSPS科研費 JP20K00716の助成を受けたものです。

(12)

注

注1 常時、各自が学習を自己評価し、その結果を提出、「学習の振り返り」を行うために使用する。

注2 神戸女子大学onlineシステム。

注3 大谷尚（2011）による。本研究課題のような小規模データ分析に適した方法で、その一部を表1に示す。

参考文献

青木直子・中田賀之編（2011）『学習者オートノミー 日本語教育と外国語教育の未来のために』ひつじ書房

桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」（2007）『自律を目指すことばの学習』凡人社

大谷尚（2019）『質的研究の考え方 研究方法論からSCATによる分析まで』名古屋大学出版会

大谷尚（2011）「SCAT:Steps for coding and Theorization：明示的手続きで着しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法」『感性工学』日本感性工学会、第10巻3号、pp.155-160

館岡洋子（2015）『日本語教育のための質的研究入門』ココ出版

中田賀之編（2015）『自分で学んでいける生徒を育てる』ひつじ書房

安原順子（2021）「ICTを活用した双方向授業活用の日本語教員養成プログラム—2021年度の報告と—2020年度の報告と学習者オートノミーを育てる授業内フィードバック—」『神女大国文』第31号pp.55-62

安原順子（2020）「日本語教員養成と日本語学習に資する双方向授業プログラム—平成30年度の報告と学習者オートノミーの構築—」『神女大国文』第30号pp.55-62

安原順子（2019）「ICTを活用した双方向授業活用の日本語教員養成プログラム—2019年度の報告と学習者オートノミーの構築—」『神女大国文』第31号pp. 35-42

横溝紳一郎、山田智久（2019）『日本語教師のためのアクティブ・ラーニング』くろしお出版